



ぼくはくまのままでいたかったのに…

イエルク・シュタイナー／文 イエルク・ミュラー／絵
えほんぼ 大島かおり／訳 ほるぷ出版



ある日、くまが冬眠から目覚めると、森の中には大きな工場が建っていた。くまがあつげにとられて見ていると、「とっとと、しごとにつけ」と人間の怒鳴り声。ぼくは、くまなの？

バッテリー

あさのあつこ／作 佐藤真紀子／絵 教育画劇

日本文学 913 ア



巧は名ピッチャー。活躍していたのに、家の事情で田舎に引っ越してきた。この中学に、まともな野球ができる奴はいるのか？ イラつく巧の前に現れたのは、キャッチャーの豪だった。こいつとなら、最高のバッテリーが組めるぞ！

だれも知らない小さな国

佐藤さとる／作 村上勉／絵 講談社

日本文学 913 サ

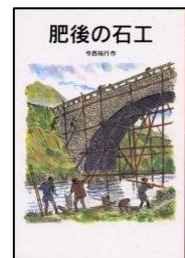


小学生だったとき、ぼくは、「こぼしさま」の話が伝わる小山を、自分だけのひみつの場所にしてた。そしてあの日、ついにぼくは見た！小川を流れていく赤い運動ぐつの中で、小指ほどしかない小さな人たちが、ぼくに手を振っているのを…。

肥後の石工

いまにしすけゆき 今西祐行／作 岩波書店

日本文学 B913 イ



九州地方には、江戸時代末期に石だけで作られた、美しいアーチ型のめがね橋が数多くある。これは、つらい過去とたたかいながら石橋づくりに励み、命をかけて弟子たちを育て上げた石工頭、岩永三五郎の物語。

ワタシゴト -14歳のひろしま-

中澤晶子／作 ささめやゆき／え 汐文社

日本文学 913 ナ



広島川には、原爆の熱線で変形した瓦や石が今も眠っている。川で石を拾うことに夢中になる和貴に、同級生のひるが言った。「あの熱で、ひるも焼かれたのよ、わかってる？」—修学旅行で広島原爆資料館を訪れた中学3年生の5つの物語。

森のユキヒョウ

C.C.ハリントン／作 中野怜奈／訳 岩波書店

外国文学 933 ハリ



動物が大好きなマギーは、吃音があり、人前でうまく話せない。家でも学校でもうまくいかず、田舎に住むおじいちゃんの家に預けられる。ある日森で、誰かがこっそり捨てたペットのユキヒョウに出会う。マギーは助けようとするが…。ハラハラ、ドキドキの物語。

シリアからきたバレリーナ

キャサリン・ブルートン／作 尾崎愛子／訳
平澤朋子／絵 偕成社

外国文学 933 ブル



シリアの内戦から逃げて、イギリスへやってきた11歳のアーヤ。難民認定してもうため、毎日難民支援センターに通っていたが、同じ建物の2階にバレエ教室があることを知り…。苦しい毎日を過ごしながらも、バレリーナになる夢を追う少女の物語。

自分らしく、あなたらしく

-きょうだい児からのメッセージ-

ノンフィクション 369 タ

高橋うらら／著 さ・え・ら書房



「きょうだい児」とは、病気や障がいのある兄弟姉妹をもつ子どものこと。難病の妹がいる中山穂乃果さんと、元きょうだい児二人の半生を描きます。家族のために我慢したり、悩みを抱えたりしながらも、やりたいことを見つけた彼らが伝えたいメッセージとは…。

